

平成28年度 すくすく大分っ子プラン

平成27年度第2回大分市子ども・子育て会議で
出された意見及び市の施策への反映状況等

■ 特定教育・保育施設等の利用定員について

委員からの質問・意見	事務局回答
大分市の待機児童数が平成27年度に急増した背景をお聞きしたい。	<p>《子ども保育課》 平成27年度から、「待機児童」の定義が変わり「求職活動中」の場合も含めるようになったこと、また、国は特定の施設の入所を希望して入所できない場合は「待機児童」から外してよいとしているが、「特定の施設」の捉え方が様々で、大分市では1移設しか希望しない人を除き、全てカウントしていることが要因と思われる。</p>
小規模保育等の拡大にあたり、各施設において連携施設の確保が困難な状況になっているが、市としてどのように取り組むのか。	<p>《子ども保育課》 公立保育所での支援を進めるほか、幼稚園の預かり保育実施園にも協力を依頼していきたい。</p>
保育の量の拡大も大切だが、質の確保のため、子どもの育ちを保障できる施設を認可してほしい	<p>《子ども保育課》 認可にあたり、きちんとした保育環境を整備するべきであることは認識しており、施設整備や研修に関し、できる限りの支援を考えていきたい。</p>
保育士不足の解消に向けた対策はどのようにするのか。	<p>《子ども保育課》 市では、保育所の入所決定にあたり、保育士を優先させていることや、事務負担軽減のための補助事業の予算化のほか、県の事業である保育士資格取得のための就学支援の周知を図っている。</p>
中核市である大分市は県を介さず、国と直接、補助金などの協議ができると思うが、どうなのか。	<p>《子ども保育課》 制度上、事業によって県と市で区別されており、保育士資格取得のための就学資金貸付制度は県の事業であるが、保育士の処遇改善のための運営費補助は市の単独事業である。</p>

■ 児童育成クラブについて

委員からの質問・意見	事務局回答
今後5年間で、1人当り1.65㎡の施設が確保できるのか。	<p>《子育て支援課》 おおむね5年を目途に施設整備計画を策定し推進しているところである。</p>
クラブでは指導員が不足しているが、職場環境が悪いことが原因とも思われる。	<p>《子育て支援課》 指導員不足を解消するため、人材バンクである「指導員ばんく」を作り、市報等で募集した方を、クラブからの要望により紹介をしている。</p>
民間の児童クラブが必要な校区は、どの程度あるのか。	<p>《子育て支援課》 27年度に実施予定の大在校区以外、具体的には出ていないものの、今後の利用希望状況から検討をしていきたい。</p>

■ 在宅で子育てをしている保護者への支援について

委員からの質問・意見	事務局回答
<p>在宅で子育てをしている方への支援はどのようなものがあるのか。 また、虐待予防のため、相談先や解決方法など市で示せるものがあれば教えてほしい。</p>	<p>《子育て支援課》 身近な地域で気軽に子育ての様々な相談をしていただけるよう、平成27年10月から、中央、鶴崎、植田のこどもルームにファミリーパートナーを配置した。相談を受けの中で、子育て支援の情報提供や関係機関へ繋ぎ、悩みの解決や虐待予防に取り組んでおり、市報、市のHPで周知を図っている。</p> <p>《健康課》 母子健康手帳交付時に地区担当の保健師が面接し、個別の状況把握に努めている。また「こんにちは赤ちゃん訪問事業」で全戸訪問をし、地域の民生委員児童委員、関係機関に繋げる取組みをしている。</p>
<p>保育園でも在宅で子育て中の保護者を対象とした子育て支援をしており、そのような場所で情報発信や互いの情報交換を行っている。</p>	
<p>主任児童委員として子育てサロンの運営をしているが、市でもサロン活動の周知を図ってもらいたい。</p>	<p>⇒ 意見に対する市の取組等①</p>
<p>市外からの転入者向けに子育て支援の情報提供をどのように行っているのか。地域の子育てサロンへの参加が進むとよいのではないかと。</p>	<p>《子育て支援課》 子育て交流センターで毎月1回「ウェルカムパーティー」を開き、地域の子育てサロンやこどもルームを紹介するなどの情報提供を行っている。</p> <p>《健康課》 鶴崎、植田の行政センターでは、転入届出時に子ども医療のほか、保健福祉センターで母子保健サービスの紹介も行っている。</p>
<p>妊婦健診を通して妊娠期から背景を把握している産婦人科との連携が大事だと思う。</p>	<p>《健康課》 心配な母親に関しては、市内全域の産婦人科から保健所へ連絡が入る。</p>

■ 施設入所（園）児童の保護者への支援について

委員からの質問・意見	事務局回答
<p>発達等に課題のある子どもに関し、子どもの状態をよく把握している保育園や幼稚園にコーディネーターを配置するなどして、専門の機関と連携して早期対応を図ってほしい。</p>	<p>⇒ 意見に対する今後の市の取組等②</p>

■ 配慮を要する子どもや保護者への支援について

委員からの質問・意見	事務局回答
<p>ニート、フリーターの若者の約半分が、グレーゾーン域であるとともに、貧困家庭や生活保護家庭の若者もいる。</p> <p>サポステを利用している若者の38%が過去、不登校の経験があり、発達障がいや知的障がいの問題を小中学校時代に先送りした結果、社会に出てからの問題となっている。</p> <p>より早期の支援を行うため、幼稚園、小学校、中学校が連携するシステムを作り、社会に出ていくために育てる取り組みをしてほしい。</p>	<p>《教育センター》 幼稚園、小学校、中学校では発達等の課題の把握をし、校内での情報共有をしているが、学校側から適正就学の相談をする際に、保護者の理解を得るのが難しい場合も多い。</p> <p>なお、療育機関等の専門機関へ繋げる場合は、保護者の理解が難しく一つの課題になっている。</p> <p>平成26年4月に開所した大分市教育センターで、特別支援教育の相談を受けているほか、電話相談や訪問相談等を受けている。</p> <p>また平成27年度から「相談支援ファイル」を希望する保護者に配布し、出生から就労までの記録をしてもらい、子どもの育ちを高校、就労まで繋ぐことができるようにしている。</p>
<p>「相談支援ファイル」の対象は、現在、特別支援の対象児童に限られているのではないかと。個人的に医療機関等を受診している場合などは今後対象にしていくということが良いか。</p>	<p>《教育センター》 配布対象は、保護者が子どもの発達に関し心配がある方、全てであり、子どもの障がいの有無だけではない。</p>
<p>保健師との連携はどのようになっているのか。</p>	<p>《教育センター》 大分市特別支援連携協議会をつくり、保健所等、関係各課との連携を図る中、乳幼児期からの支援体制の在り方を協議している。</p> <p>またその下部組織として作業部会を作り、担当で個別の情報共有を図っている。今後とも、出生から就学、卒業後までの支援体制を整えるべく努めていきたい。</p>
<p>保育園では市の巡回指導をお願いして、グレーゾーンの子どもの接し方を指導してもらっているが、それを保護者へも伝え、協力して子どもを育てている。小、中学校でも同様に「学習」と「自立」の両面で保護者と協力して子どもを育てることができれば良いと思う。</p>	
<p>発達障がいの早期療育が必要であるが、大分市には療育機関が不足しており、利用が難しい状況であることが課題だと思う。</p>	<p>⇒ 意見に対する今後の市の取組等③</p>

委員の意見に対する市の取り組みについて

【意見①】子育てサロンについて、活動の周知、転入者向けの情報提供の促進を。

現行	今後の取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援サイト、子育て応援ガイドに掲載 ・子育て交流センターで保護者からの相談に応じて紹介 ・転入者向けに毎月開催する「ウェルカムカムパーティー」の中で紹介 ・市内2カ所のこどもルームにおいて「子育てサロン」を記載した「子育て支援施設マップ」を作成・掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の全こどもルームにおいて子育てサロンを記載した「子育て支援施設マップ」を作成・掲示 ・子育てサロンの希望により、サロンから提供されるチラシ等の配布

【意見②】発達等に課題のある児童を就学前から就職まで、関係機関が連携して子どもを育てる取組みをしてほしい。

現行	今後の取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度から、希望する保護者に「相談支援ファイル（つながり）」を配付し、幼少期からの児童の記録をしてもらう取組みを始めた。幼稚園や学校等でも協力してファイルに記録を残し、就職後も含めて、将来的に役立ててもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度からは、相談支援ファイルを市内の幼稚園や保育所等にも見本として配付し、ファイルの目的や内容について知ってもらうとともに、保護者への紹介に繋げる。また、関係機関と連携し、療育機関等でも配付できるよう、配付場所の拡大を検討する。

【意見③】発達障がいの早期療育が必要であるが、大分市には療育機関が不足しており、利用が難しい状況であることが課題である。

現行	今後の取り組み
<p>②にこにこルームでの支援の充実 親子通所「にこにこルーム」で定員20名の受入</p> <p>※その他 関連項目 「すくすく大分子プラン」(P52~53) 分野3 配慮を要する子どもへの支援</p>	<p>平成28年度からファミリーパートナーとして心理職2名を新たに配置。発達等の相談を受けるとともに、親子通所「にこにこルーム」事業に携わることで、にこにこルームの定員を20名から30名に拡大。午後から行う個別相談の「にこにこ広場」において32名の受け入れを行う。</p>